

「修学旅行最後の日」
学校優秀賞受賞作品 6年生作品

※ 写真は教師が撮影



写真のみんなの笑顔から、修学旅行が心に残り、かけがえのない思い出になったこと、

みんなすてきなクラスの仲間なんだということがよく伝わってきます。後ろから、やわらかい夕陽が差し込んでいるのがとてもいいですね。友達との時間を夢中で過ごしていると、知らない間に夕陽が射し込んできていたのでしょうか。心がほうっとあたたまる作品です。

夕陽の色と詩の文字の色がよくマッチしています。また、文章のレイアウト（配置）を考えたことによって、夕陽の光が生き、詩がほんわりと浮かんでいるような効果が生まれましたね。

「私の宝物」
学校優秀賞受賞作品 6年生作品

講評 美藤

※ 写真も児童が撮影



作者の思いがより伝わってくる作品である。

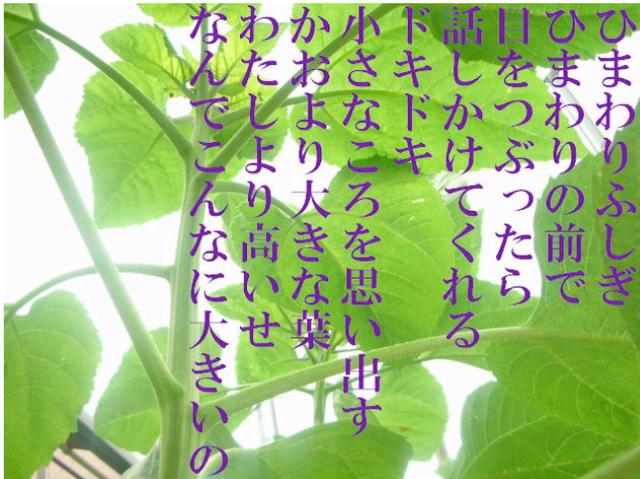
作者が日ごろ、このバレエシューズとそれにまつわる思い出を宝物として大切にしている様子が伝わってくる。

この作品の受け取り方は、大人、子どもによっても大きく変わってくると思われる。作品を見る側の感性にもよるが、この作品は共通体験をもっていない受け取り側にも、この写真を撮るまでのストーリーを思い起こさせる。

思い切って、余分な言葉を削り、「ありがとう」という短い言葉にしたことも作品にマッチしている。

写真とバレエシューズの構図のとり方、文字の配置とフォントの色もよく、作者の思いを写真と詩の巧みな組み合わせで表現している。

「ひまわりの不思議」
優秀賞 3年生作品



太陽の光が透けて見えるような、透明感のある緑の美しさに目を奪われました。写真の撮り方がいいですね。近づくと視界がひまわりの葉でいっぱいになり、ひまわりの葉につつまれているようなちょうどいい距離で撮影することができます。右端の葉が画面からはみ出しているところも、見ている人に葉の大きさ、そして、ひまわりの大きさを想像させていますね。このような「部分を切り取る」撮り方っていいですね。また、普通なら葉の影になって薄暗くなりがちですが、太陽の光をうまく使い、葉の色が透けて見えるような効果を生み出していますね。まるで、緑のシャワーを浴

びているようです。葉脈が光で透けて見えるところもとてもきれいです。

ひまわりの大きさは写真から十分伝わるので、言葉にしなくてもいいなと思いました。むしろ、どんなドキドキなのかもっと知りたかったです。透明感のある写真なので、伝えたい気持ちを精選していけば、もっともっと美しい作品になると思います。

学校のひまわり畑の中に入ったときに、そういえばこんな景色がみえたなあと、懐かしい気持ちになりました。

「白組の円じん」
優秀賞 4年生作品



写真とポエムが見事にマッチしています。運動会の団体競技での一場面。一つの円になった という表現は、「円陣をみんなで組んだ」体験をしたからこそ生まれたものなのでしょう。フォトの円陣とポエムの一つの円がぴったり重なり、心の中にずっと入ってきました。「一つ」も三回出てきます。これも印象的です。体験を通じての感動が伝わってくる作品です。円陣を組んだ上位にポエムを配置した構成も絶妙です。

「船のベッドは海の上」
優秀賞 4年生作品



中島のきれいな海で船のように浮かびに、浮き輪を持って出掛けたくなる作品です。ふるさとの景色に対する愛情が伝わってきます。

「ゆーらゆら」「うつらうつら」などリズムのある言葉を使うことによって、ゆったりとした海で休む船の様子をうまく表現しています。写真もアングルや構図がよく船が桟橋に並んでいるのがよく分かる一枚です。写真と詩の内容がとてもマッチしています。

とてもよい写真なのでその写真を生かすよう、字の配置や色にもこだわるともっと素敵なフォトポエムになると思います。目立つだけではなく、「どんな色が合うかな?」「どこに詩をもっていくと写真も詩も生きるかな?」と考えながらいろいろ試してみるといいですね。